

## シリアにおける園芸療法の試み ～夢を形にするために～

「園芸療法 (Horticultural Therapy)」とは、植物や園芸作業を治療や身体的あるいは精神的リハビリテーションのための手法として用いるものである。園芸の「療法 (セラピー)」としての活用は、主に精神病患者を対象とした屋外作業として古くから取り入れられてきた。第二次大戦後からは、欧米を中心に「園芸療法」として研究され始め、アメリカでは現在、療法としての有効性が認められ、その指導にあたる「園芸療法士」としての資格も社会的に認知されている。日本でも近年、医療・福祉施設や地方自治体等が障害者や高齢者のケアを目的とした導入に関心を向けている。



園芸療法の効果としては、園芸作業実施に伴う身体的な機能回復や、香り、色、大きさ、手触り等五感を適度に刺激することによる情緒安定化等の効果も期待される。また、園芸活動を通して、知識や技術も習得でき、観察力や判断力、計画性等も養われるなど、知的発達にも有効である。さらに、植物を育てることによって、自分が誰かの役に立ちたい、必要とされたいと思う気持ちをかなえてくれる、という面もある。

園芸療法で重要なことは「結果」より「経過」であり、「園芸」が結果（できた物）を大事にするのに対して、「園芸療法」はプロセスを重視している。つまり園芸療法では、完成品のできばえや収穫量を評価することが第一目的ではなく、野菜や花を育てていくプロセスが対象者にどう影響を与えるか、ということが一番大切である。言い換えれば、園芸作業を通して対象者が癒されること、あるいは自分でも何かできるんだという達成感を得られることが重要である。したがって、対象者の能力や障害に応じたプログラムを組むことが必要で、園芸作業の作業項目や内容の検討はもちろんのことであるが、野菜や花の栽培自体のほかに、野菜の収穫祭、とれた野菜を使った食事会、花の写生大会、花束作り等々、関連するイベントを計画することも含まれる。

さて最近、シリアの首都ダマスカス郊外のコードセイヤにある知的障害者の養護学校で、専門家・協力隊員有志の協力のもと、「園芸療法」のための畑作りを開始した。雑草取り、畑の耕し、堆肥と肥料入れ、種まき、苗床作り、水まき、それから柵用のプレート作り、と作業は盛りだくさん。3pm から始めて、休憩をはさんで 6pm 過ぎに無事作業終了、きれいな畑が完成した。

シリアのような国で仕事をしていると、いろいろな問題につきあったり、悩んだりすることがよくある。そんな時、一人だけでがんばるより、隊員同士、専門家同士、あるいは専門家と隊員の組合せで協力し合っていければもっと大きな力になれるのでは、と思う。考え方や価値観を共有できる人たちが会おうとき、1+1が2以上になるような可能性、組合せがある。それが、人と人が協力する価値やおもしろさだと思う。また、何かをしようとする時、「夢」だとか「理想」があり、そしてそれを実現させるための方法やステップがある。この「園芸療法プロジェクト」、まだやっと第一のステップが始まったばかりだが、やり方によってはシリアでの技術協力のあり方やシリアの養護システムのこれからの大きな影響を与える可能性を秘めているのかもしれない。「夢を形にするために」、このプロジェクトが「みんなの夢を乗せたプロジェクト」になれば、とひそかに思う。

(在シリア：湖東)

